

平成26年度 第2回岡崎市市民協働推進委員会会議録

日 時 平成26年8月19日（火）午後6時30分～午後7時30分
場 所 岡崎市福祉会館3階302研修
出席委員 牛山久仁彦委員長・関谷みのぶ委員・神尾明幸委員・石川優委員・
白井宏幸委員・三島知斗世委員・今井友乃委員・石川貢委員・
柴田秀和委員・宮澤会美香委員
事務局 市民生活部（市民協働推進課）：高田部長・梅村次長・雑賀副主幹・
石原主査・入木事務員
文化芸術部（文化活動推進課）：小田次長・神谷主幹・近藤主査・
細野主査
傍聴者 0名

1 開会のことば

2 委員長あいさつ

3 議題

(1) 第2期岡崎市市民協働推進計画策定スケジュール（案）について

事務局 資料により説明。
委員 A スケジュールについて、何か質問、意見等はあるか。
委員 B 庁内推進会議のメンバーは決まっているのか。
事務局 決まっている。市民協働推進事業を実施している関係課から事務局が選定し、構成している。
委員 B 具体的に言うと、環境や観光、100周年関係の課が入っているということか。
事務局 そのとおり。企画や防災、環境、福祉、子育て支援、保健医療などの分野のうち、市民協働事業の実績のある関係の課が入っている。
委員 B ありがとうございます。
委員 A 財政課は入っているのか。
事務局 関係課ということで入っている。色々なやり方があるが、そこで意見を伺う。
委員 A 第3回の委員会は11月下旬から1月上旬と幅があるが、3ヶ月の間のどこかでやるということか。
事務局 そのとおり。11月7日までがパブリックコメントの期間となっており、そこから事務局で意見を整理させていただくため、11月下旬が開催できる最短の日程だと思っている。ただし、12月に入ってしまうと議会が始まるため、1月上旬までという幅広い期間でスケジ

ルール調整をお願いできたらと思う。

委員 A 他には何かあるか。

委員一同 特になし。

委員 A それでは、スケジュールについては、このスケジュール案に基づいて進められていくということで確認したいと思う。

(2) 第2期岡崎市市民協働推進計画（案）について

事務局 資料により説明。

委員 A 委員の皆さんから意見をいただいて、だいぶよくなったと思うが、今の事務局の説明を踏まえて、委員の皆さんから意見をいただき、まとめていきたいと思う。まずは、修正点について意見を伺いたいと思うが、いかがか。

まず、3ページについて、意見を伺って図を修正してもらったが、条例と総合計画の関係が少し気になった。条例よりも総合計画の方が上に見えるのはよいのか。総合計画は議会が議決している計画だと思うのでよいといえばよいのかもしれないが、ここは工夫があった方がよいと思う。

次に、32～33ページについて、重点プロジェクト事業に米印をつけたことにより、非常に読みやすくなったと思うが、米印が逆に気になる。そのため、委員の皆さんの印象もあるが、太字にする方がよいのかどうか。あと、先ほど圧縮しすぎて見にくいという話もあったので、その点も踏まえて検討してほしい。

さらに、35ページNo. 3について、『きっかけにつなげます』という表現がどうかと思う。35ページNo. 4では、『きっかけづくりを行います』と書いてあり、日本語として文言が気になる。

それから、39ページNo. 20について、要するにここでは市民活動団体と事業者との連携ということも入れようということか。

事務局 はい。

委員 A 「事業者と市または事業者と市民活動団体が協働事業を行った」とした方がより分かりやすいのかなと思う。

続いて、40ページNo. 26と41ページNo. 30について、『活躍の機会を増やします』というところで、「活躍」という言葉が情緒的というか、計画としては文言を考えた方がよい気がする。

最後に、44ページNo. 42について、何が協力して取り組むのか。市と市民活動団体か。何が協力して取り組むのかが分からないので、主語か目的語を入れた方がよい。

他に何かあるか。

委員 C 38ページNo. 15の※4で説明している中間支援NPOの注釈につい

て、『行政と市民の間』という表現が気になる。機能としてコーディネーター機能の直接支援に関して中間なら分かるが。内閣府のNPO サイトにもこのような書き方はしていないと思う。『相談窓口などの機能』についてはそのとおりだが、『行政と市民の間に立ち』ではないのではないか。

- 委員 A どう直せばよいか。
- 委員 C 機能として中間という意味になるとよい。
- 委員 A それはそのとおり。何かうまい表現はないか。
- 委員 C いきなり『行政と市民の間に立ち』と書かれてしまうのがよくない。
- 事務局 内閣府のNPO サイトを参考に修正する。
- 委員 C そうして欲しい。機能が中間ということ。
- 委員 A 『行政と市民の間に立ち』というところを直していただく。
- 委員 C 後ろの文章は間違っていないので、よろしく願います。
- 委員 A 他にはいかがか。
- 委員 D アンケート調査結果の言葉の表現についてだが、22 ページまでは『アンケート調査結果』と書いてあり、24 ページ、26 ページは『アンケート結果』となっているが、これは何か違うのか。
- 事務局 指摘のとおりなので、すべて「アンケート調査結果」で統一させていただく。
- 委員 D もう一点ある。アンケート調査結果について、22 ページと 26 ページを見ると、22 ページでは『～どうかを尋ねたところ』と書いてあり、26 ページでは『～と思うかという質問に対し』と書いてある。もちろん中身は同じだが、言葉を統一した方がよいのではないか。
- 委員 A 同じことだが、文言を統一した方がよいということ。「尋ねたところ」よりは「質問に対し」で統一してはどうか。
- 事務局 分かりました。
- 委員 A 他にはいかがか。
- 委員 B 少し視点が違うかもしれないが、47 ページの『実効性の確保』の中で、この計画は何部刷ってどのように配布するのか。『学識経験者、市民活動団体代表者及び公募市民で構成する市民協働推進委員会に意見を求めます』と書いてあるが、この計画の公表については、パブリックコメントを行った後に印刷して、そのあとどうするのか。
- 事務局 関係するところには配布する。計画については、ホームページで見るともできる。活動の現場には 1 部ずつ置きたいと考えている。
- 委員 B 活動の現場とは。
- 事務局 市民活動の現場である地域交流センターや市民活動センター。
- 委員 B 今回の横断的な庁内会議の各課には配布し、担当者には読んでい

ただけるといふことか。

事務局

はい。全庁的に推進していくという考えもあるため、すべての課に配布したいと考えている。職員も人事異動で変わっていくので、計画について理解をして欲しいと思っている。

委員 E

ここに実際に書くかどうかは別にして、市民活動団体に対して、この計画を使って実際にどのように市民協働を進めていくのかを伝える御披露目会のような機会があってもよいかと思う。例えば、登録団体がそういう機会を持つとか、センターの情報紙の中でしっかり取り上げていただくとか、浸透をしっかりと図った方がよい。

委員 A

中身というよりは、この計画ができたあとどうするかという意見をいただいた。

委員 B

実効性の確保があまり確保されていない気がした。

事務局

色々やり方はあるかと思うが、今のところ、この計画の個別の事業は、毎年実施している状況を調査したいと思っている。委員の皆さんに、個別の事業がどのような形で進んでいるのかを理解いただき、まだまだ進みが甘いなど、色々な意見をいただきながら個別の事業を推進していけるようにしたい。個々の事業毎に、年度計画を設定するやり方もあるが、その設定根拠がないということもあり、毎年進行管理をするのが良いのではないかと考えている。

委員 A

他にはいかがか。

委員 F

少し表現について、36 ページ No. 6 の事業内容のところ、文章が3つあるが、そこに「さらに」や「また」などつなぎ言葉があるのではないかと気がなった。

委員 A

そこは文章がつながるように工夫をして欲しい。

事務局

はい。

先ほど指摘のあった3ページの計画の位置付けの図のところだが、第1期計画の中ではもう少し詳しい図であったが、基本的な体系としては記載のとおりである。自治基本条例がなく、上位計画については総合計画であるということで説明をさせていただいて、前回は記載のとおり位置関係にさせていただいた。しかし、指摘のとおり、第6次総合計画と条例はどういう関係なのかということもある。一度持ち帰らせていただき、委員の皆さんには再度送らせていただいた際に見ていただきたい。パブリックコメントの関係もあるため、その中で検討をさせていただく。

続いて、32 ページ、33 ページについて、重点プロジェクト事業の示し方が、米印がよいのか太字がよいのかということだが、どちらか決めていただき検討させていただきたい。

委員 A

それは感じ方なので、事務局で検討いただきたい。最終的にどう

なるかは、内容の問題ではなく感じ方の問題である。

事務局
委員 C
事務局

それでは、太字に修正させていただきたい。

32 ページ、33 ページだけ字体が明朝体になっており、見にくい。

見やすくするには A 3 にする手段もある。字体については他のページの書体と合わせる。

また、35 ページ No. 3 の事業内容のところで『参加のきっかけに
つなげます』という表現の指摘をいただいたが、35 ページ No. 4 で
『参加のきっかけづくりを行います』という表現があるので、こち
らに統一して「参加のきっかけづくりを行います」にしたいと思う
が、よろしいか。

委員一同
事務局

はい。

39 ページ No. 20 については、「又は」を平仮名にさせていただい
て、「事業者と市または事業者と市民活動団体が協働事業を行った」
とさせていただく。

44 ページ No. 42 についてだが、これは地域交流センターが町内会
等の地域コミュニティ組織に対して情報提供をすることで、課題解
決に対して取り組むことの促進になるということ。

委員 A
事務局

『協力して取り組む』ことの「協力」とはどのところなのか。

『協力して取り組む』とは、地域交流センターが地域コミュニテ
ィ組織と一緒にやってということ。

委員 E
事務局

私がこの意見を言ったが、いわゆるテーマ型市民活動団体とその
地域にある町内会が協力してというつもりで言った。

そうすると、この地域コミュニティの情報の提供に対してという
前段と少し意味が違うので、また付属して言葉を付け加える形にな
る。

委員 E

『地域の活動団体の活動情報などを発信する』と言っているので、
その活動団体と町内会とが協力して取り組むというつながりという
意味。

事務局

「地域交流センターによる情報提供」という形の中に、身近な市
民活動に対する情報提供という部分と、地域交流センターが講座や
イベントを行う情報提供の 2 種類があるため、そこを区別して分か
りやすくする形になる。ただ、その主体としてなるのが地域交流セ
ンターという意味でここでは書いてあるが、もともと地域交流セン
ターが行うのではなくて、地域交流センターに集まる人たちの身近
な団体がということになると、今の文面からは読み取りにくい。

委員 A
事務局

情報提供を行うのは地域交流センターで、地域交流センターの事
業なのですよね。

そうです。

- 委員 A だが、地域交流センターが情報提供することで課題解決に協力して取り組むことを促進しますと回りくどく書いているので、ますます分からないが、要するに地域交流センターが地域の課題解決のために誰と協力するのか。
- 事務局 地域のコミュニティ組織や課題を持っている団体。
- 委員 A そうしたら、「情報提供を行い、地域の課題の解決に町内会等の地域コミュニティ組織と協力して取り組みます」でよいのではないか。
- 事務局 「地域コミュニティ組織として」と入れてしまってよいのかということだけ。
- 委員 A 地域交流センターが誰と協力して取り組むことを促進するのかよく分からない。要するに情報提供によってそういうことが促されるようにしようということですよ。
- 事務局 主旨としてはそのとおり。
- 委員 A それでは、少し文言を整理して分かるようにすればよいということでしょうか。
- 事務局 はい。
- 委員 A それでは、ここはそういう形で修正をお願いします。
- 委員 G 他に何かあるか。
- 委員 A 先ほど指摘のあった 41 ページ No. 30 の『活躍の機会を増やします』のところを何も話をしていないが、大丈夫か。
- 委員 A 何か「活躍の機会」と華々しく機会をつくると書くのは行政施策として気になる。「活動の機会」くらいでどうか。
- 事務局 「活動の機会」と修正する。
- 委員 A 大体委員の皆さんから一通り意見をいただいたが、大丈夫か。
- 委員一同 はい。
- 委員 A 委員の皆さんの様々な指摘や協力により、かなり充実したものになってきている気がする。パブリックコメントまで日数がないということで、先ほどもう一度送ると言っていたが、そのような時間はあるのか。
- 事務局 同時進行させていただく。今日修正したところは、皆さんに送らないと分からなくなってしまう。今日の結果については、同意いただいたものから、中には先ほどの図みたいに案になるかもしれないが直させていただき、同時に揉んでいく。事務局が市長、副市長に説明する大勢に影響がないようにやらせていただきたい。
- 委員 A 今日の結果を受けて直すところもあるため、委員長と事務局で確認をさせていただき、完成したものを委員の皆さんにお送りする。その上で、委員の皆さんからどうしてもという意見があればいただ

いて、もう一度委員長と事務局とで整理をさせていただき、結果を報告するという段取りでどうか。

事務局 分かりました。

(3) その他

ア 市民公益活動助成金の報告

事務局 資料により説明。

委員 A 何か委員の皆さんから感想や意見等はあるか。

委員一同 特になし。